

復興支援フォーラムニュース No. 51

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先 今野順夫 (tkonno67@gmail.com) 中井勝己 (024-548-8313) >

<第48回ふくしま復興支援フォーラムでのご意見等>

10月10日、第48回ふくしま復興支援フォーラムを開催し、約70名の参加者がありました。「南相馬市の現況と復興に向けた課題」について、桜井勝延氏（南相馬市長）から、詳しい報告をいただいたのち、活発な質疑応答が続きました。以下は、提出された文書によるご意見等です。

~~~~~

★ 自分も被災者でありながら復興の陣頭指揮に立っていらっしやっただのは流石だなと、というか立派だなというのが率直な思いです。これからは是非、積極的な情報発信をしていただきたいと思います。(A.O)

★ 南相馬市。この街のことは新聞、テレビでよく目にしましたが、その実情と現状についてはよく知らなかった。なので、今回のお話を聞いて、今後の南相馬への見方が変わってくるので有意義でした。(S.Y)

★ 現在の南相馬について知れて、とても勉強になりました。脱原発について、ただ原発をなくせ！というだけでなく、脱原発に向けてしっかり計画を立てているのは、とても良い事だと思います。自分達も、当事者としての視点を忘れずに生きていこうと思います。ありがとうございました。(T.S)

★ 単純な距離によって区別された土地。実際の被害に関係なく、円で分けられた人々の苦悩を考えなくてはなりません。(Y.K)

★ 市長の話聞いて考えたこと。大震災・原発事故の緊急時には、首長のリーダーシップの差が出たと思う。これからの復興・再生には、我々個人の力が必須になると思う。(R.N)

★ とても良い話を聞かせていただき、ありがとうございます。(H.S)

★ 震災直後にテレビなどでクローズアップされた市長の2年半位の実感を感じさせる話をお聞きした感がありました。菅野村長さんとの違いについても感じるどころ大でした。(S.M)

★ ①現場が大事、②市民が自由に選択できる状況をつくるのが行政の役割というのに感銘を受けた。(H.M)

★ 改めて南相馬市の厳しい現実を知り、愕然としました。またその中で、大いに努力されている市長の姿に感銘しました。特に、“理念”をもって現実・現場に対応している点が印象的で、若い人もきっと戻ってくると思いました。非常に危うくなっているマスコミ、ジャーナリズムにも適切と思いました。データがきっちりしているのも納得しました。

★ 復興するにあたって、現場を知ることの大切を理解できました。国力・人間力とは何か。・・少し分かったような気がします。(Y.S)

★ 福島に来て半年になります。福島県の市町村の職員さんは、大変苦勞されていると思いますが、なぜか生き生きしているように見えます。(K.K)

★ 津波による死者の存在は、原発事故で苦悩している避難者のなかで、どのように関わること

ができるのか。重要な思想的課題と感じています。(O.S)

★ 桜井さんの話は初めてお聞きしました。主張されている事への異論は多々ありますが、一線に立って、首長の責任を踏まえながら施政に取り組んでいる姿勢には多とするものがあります。

(S.K)

★ 直接、話が聞いて良かったです。震災後2年半経ち、避難指示解除準備区域の復興および住民の生活再建に向けた具体的な施策を詳しくお聞きしたかった。(T.O)

★ 現場のトップとして、現場によりそいながら、現場の立場に立ちながら支えてきたことの自負、思いが響きました。ありがとうございました。(H.C)

★ 除染、農業振興、産業復興、新たなエネルギー政策と様々な課題を抱えていることを、改めて感じました。また、災害時の国や県からの情報の伝達の不良で、大きな困難を招くことも理解できた。災害マネジメントという分野において、大きな課題になると思います。(S.A)

★ 市長自らが現場の生の声を率直にくれたと感じている、国の対応について、地域の人々の意思表示の仕方、自治体の責任者の心情等について、はじめてうかがったようなことも多い。こんなに本音を率直にうかがえたことはあまりなかったように思う。南相馬の持つ特性、特質についていろいろ考えさせられた。また、各自治体ごとの首長の個性や活躍ぶりをうかがえて有意義であった。

(S.I)

★ 行政を担う市長さんの話は初めて聞いた。ふみとどまる判断をした経過を聞き、行政としての責任を考えたし、現場を知れば霞ヶ関も動くとの話に希望を見た。(M.K)

★ 復興を最前線でがんばっている人の話を聞くと、こちらモチベーションが上がります。(Y.T)

★ 具体的でよかった。直近の取り組みやより細かい話などもききたかった。(S.S)

★ 津波と放射能の二つの被害に合った地域が抱えている問題は、複雑で解決が難しい事がよくわかった。少しでも、南相馬を含めた被災地が復興していくには、すべての人々が、震災を忘れず、何をしていくのか、すべきか、考えて過ごさなくてはならないと思いました。(M.Y)

★ 複数の話者に来ていただき、それぞれの考えを述べていただいたり、討論をしていただくことができれば、より深い考えや話を引き出すことができるのではないのでしょうか。(T.T)

★ 「現場」の重要性をあらためて認識できました、現場の実状を知るかぎり、民間と政府との間で共通認識を覚えることができる、そして、信頼関係を築くことが可能になる、という考え方が非常にためになると思っています。私たちは、政府からの「政治的決断」を望んでいますが、「現場を知る」ことはそれを実現させるための重要な一歩なのではないのでしょうか。(R.G)

★ 物腰はやわらかかったが、言葉に強さを感じた。特に命に関しての話では、非常に強かった。震災後の苦悩ははかりしれないものがあるが、市長の持っている持論や哲学が市長を支え、南相馬市民を支えているのではないかと思った。(K.A)

★ 現場の長としての使命感や考えが伝わってきました。非常時には、超法規的なことも必要という要援護者リストの話が心に残りました。(Y.N)

★ 南相馬市の「いま」だけでなく、市長がどういうお考えなのかをお聞きできて良かったです。(Y.N)

★ 市民参加を促すことで、合意を進めていくということが、復興には不可欠なのだろうと市長の話聞いて思った。(K.U)

★ 東京に住んでいる私にとって、現場の声というものは、決してメディアを通しては得られない貴重なものであり、今後のために生かしていかなければならないものだった。これを私は聞いて終

わりではなく、東京に戻った上で、広めていきたいと感じた。(Y.M)

★ 南相馬における多岐に渡る現在の問題を具体的に深く話されていた。現状の絶望だけでなく、日本最先端の科学教育を現場で作ろうとする姿勢に、大きな希望とその道を歩むことの困難さを知る市長さんであることが解る講義であった。現場を知り尽くしたリーダーの存在は、フクシマ主催者の目標でもあり現実させたいと思った。(T.S)

★ 現場と現実の現在を知ることの大切さを再認識しました。(T.H)

★ 東日本大震災による津波により、大きな被害を受け、さらに原発事故に伴う住民避難の問題等について行政機関の長としてのご判断経過を、詳細にご講演をいただきまして感謝申し上げます。(K.F)

★ 震災から2年半以上経過し、まだまだ復興へ向けたハードルは数多くあると感じました。改めて、「震災を風化させてはならない」、「南相馬をはじめとした被災地のために復興支援をしよう」と感じました。今後、被災地の再生を少しでも手助けできればと思います。(K.G)

★ 現場と国がつながることが、原発問題を解決していく上で最も大事であるということを改めて感じさせられた。「自分は何のために生きているのか」ということを考えながら、高い意識を持って生きていきたいと思う。(T.I)

★ 双葉町の伊沢町長を呼んで欲しい。双葉町の今とこれからの話(町長の考え)を聞きたい！(S.F)

★ 福島県内にいながら、「現場」をいかに知らないでいるか痛感させられました。客観的データも、市長の熱い思いも強く伝わってきました。福島の経験を、どこにいる人間にも「人生のプラス」にしていく、それが私たちに求められていると感じました。ありがとうございました。(O.K)

=====

【予告】 第50回ふくしま復興支援フォーラム(2013年11月7日(木) 18時30分～)  
テーマ 「『プロメテウスの罫』から見えたもの」  
報告者 依光隆明氏(朝日新聞編集委員)  
会場 福島市アクティブシニアセンター「AOZ」大活動室3  
(Max ふくしま4F/福島市曾根田町1-18)

=====

【予告】 第51回ふくしま復興支援フォーラム(2013年11月20日(水) 18時30分～)  
テーマ 「子ども被災者支援法の現状と弁護士会の活動」(  
報告者 槇裕康氏(弁護士・福島県弁護士会副会長)  
会場 福島市 市民活動サポートセンター  
A会議室 チェンバおおまち3F(福島市大町4-15)

=====

【予告】 第52回ふくしま復興支援フォーラム(2013年12月5日(木) 18時30分～)  
テーマ 「ふるさとの復興(福幸)に向けて  
～かあちゃん力・プロジェクトが目指すもの～」  
報告者 塩谷弘康氏(福島大学教授)  
会場 福島市 市民活動サポートセンター  
A会議室 チェンバおおまち3F(福島市大町4-15)

=====

第49回 ふくしま復興支援フォーラム  
2013. 10. 24

## 東日本大震災・原発事故から文化財を守る

福島大学行政政策学類 菊地 芳朗

### 1. 「文化財レスキュー」とは何か

- ・活動のはじまり
  
  
- ・なぜ文化財レスキューが必要なのか

### 2. 福島県の文化財被害

- ・福島県の文化財被害の特徴
  
  
- ・文化財による被害把握の差

### 3. 文化財の救出・復旧活動

- (1) ふくしま史料ネットの活動
  
- (2) 自治体による活動
  
- (3) 「福島県被災文化財等救援本部」の活動

### 4. 現在・今後の課題

- (1) 被災文化財情報の集約と公開
  
- (2) 無形文化財の維持と記録
  
- (3) 文化財の保管施設
  
- (4) 将来計画の策定